大学図書館問題研究会京都支部第37回京都支部総会議案

【第1号議案】
2013年度（2013.7～2014.6）活動総括及び
2014年度（2014.7～2015.6）活動方針

1. 2013年度活動総括

（1） 研究交流活動

2013年度は2回以上のセミナー開催を年度目標とし、5回のセミナーと3回の共催のセミナー及び見学会を開催してこの目標を実現しました。ワンディセミナーの2回目は島根大学で開催し、島根大学附属図書館の方々と交流しました。

今年は、他団体との共催が多く、普段大図研の企画に参加しない層との交流も実現したのが特徴と言えるでしょう。

1）大図研京都ワンディセミナー
「『大学と電子書籍』の現状と未来」
日時：2013年9月21日（土）13:30～17:00
講師：入江 伸 氏(慶應義塾大学 メディアセンター本部)
会場：京都市国際交流会館 第二会議室
参加費：大図研会員は無料／未会員は500円
参加者数：39名

2）大図研京都ワンディセミナー
「島根大学探訪 ～図書館での「学び」と「協働」を考える～」
日時：2013年11月23日（土）
講演：森 朋子 氏（島根大学 教育・学生支援機構 教育開発センター長）
事例報告：矢田 貴史 氏（島根大学学術情報機構附属図書館）
事例報告：北井 由香 氏（島根県立大学松江キャンパス図書館）
会場：島根大学附属図書館 多目的室
主 催：大学図書館問題研究会 京都支部
共 催：島根大学学術情報機構附属図書館／島根県大学・高等専門学校図書館協議会
参加費：無料
参加者数：21名

3）大図研京都ワンディセミナー
「若手研究者の文献利用環境を巡る問題と図書館へのニーズ」
日時：1月25日（土）14:00-17:00

講師：崎山 直樹 氏（千葉大学普遍教育センター）
　　　菊池 信彦 氏（国立国会図書館関西館）
会場：キャンパスプラザ京都 第1会議室
参加費：無料
参加者数：43名
共催：日本図書館研究会

4）2014年ダイトケン関西3支部 新春合同例会
ワークショップ「新年度にはじめる、図書館のソーシャルメディア！」
日時：2014年2月11日（祝・火）13:30-17:00
会場：関西学院大阪梅田キャンパス14階1408号室
参加者数：30名

5）大図研京都ワンディセミナー
「RDA講習会 in Kyoto」
日時：第1回2014年2月22日(土) 13:30-16:30
　　　第2回2014年3月9日(日) 13:30-16:30
参加費（各回）：会員2,000円／未会員3,000円（会員とは大図研会員およびIAAL会員）
参加者数：第1回：41名　第2回：33名
主 催：大学図書館問題研究会 京都支部
共 催：NPO法人大学図書館支援機構

6）大学図書館問題研究会大阪支部4月例会「京都教育大学附属図書館見学会」
日時：平成26年4月19日（土）14:30～17：00
参加者数：14名
参加費：無料
共催：大学図書館問題研究会大阪支部・京都支部

7）「公開！関西ディスカバリーサービス担当者会議」
日時：2014年6月21日(土) 13:00-17:00
会場：キャンパスプラザ京都 第1講習会室（6階）
発表者：佛教大学　飯野勝則氏、大阪大学　坂本祐一氏、福井大学　太田仁氏、
　　　　同志社大学　原健治氏、京都教育大学　金森悠一氏、立命館大学　安東正玄氏
参加費：無料
参加者数：42名
主催：関西ディスカバリー担当者会議有志
共催：大学図書館問題研究会京都支部

（2）　支部報
2013 年度刊行分につきましては，発行期日の遅れが生じた号もありましたが，計画的発

行に努めました。連続企画としての「わたしの図書館紹介します！」や，新入会員が入会するたびに「新入会員挨拶」を継続して掲載してきました。また，2013 年度はワンディセミナーの報告原稿をより一層充実させ，研究交流活動とも連携する形をとりました。 2013 年度発行した支部報の目次は，次のとおりです。

1）支部報 No.295（2013/08/15 発行）
・ 大学図書館問題研究会京都支部第 36 回京都支部総会を開催いたしました
・ 大学図書館問題研究会第 36 回京都支部総会議案
・ 小特集 ：大図研京都ワンディセミナー「図書館活用法」授業評価活動～明治大学図書館におけるリテラシー教育評価の実践
  ・評価活動と図書館と・・・(佐々木 健二)
  ・できる範囲で楽しんですること(中込 栞)
  ・ワンディセミナーに参加して(中村 敬仁)

2）支部報 No.296（2013/10/15 発行）
・ 大図研京都ワンディセミナーのご案内
・ 大図研京都ワンディセミナー「Library SHIFT ！～Hot な公共図書館最前線の Cool な取組みを Beer 片手にディスカッション！～」 参加報告 (是住 久美子)
・ 支部委員 挨拶
・ 学生会員制度の施行を始めます
・ 忘年会のご案内

3）支部報 No.297（2013/12/15 発行）
・ 大図研京都ワンディセミナーのご案内
・ 小特集：大図研京都ワンディセミナー「『大学と電子書籍』の現状と未来」参加報告
  ・電子書籍が普及したら図書館はいらない。かもしれない(村上 健治)
  ・大学図書館の電子化と未来(浜田 紳吾)
  ・「『大学と電子書籍』の現状と未来」に参加して(小原 紗貴)
・ 新入会員挨拶(今野 創祐) (野村 明日香)

4）支部報 No.298（2014/02/15 発行）
・ 大図研京都ワンディセミナーのご案内
・ 小特集：大図研京都ワンディセミナー「島根大学探訪～図書館での『学び』と『協働』を考える～」参加報告
  ・大学図書館での学びと学生(浜田 紳吾)
  ・島根で「学び」について考えました(村上 健治)
・ 新入会員挨拶(中村 敬仁)

5）支部報 No.299（2014/04/15 発行）
・ 大図研京都ワンディセミナー 終了しました

・ 小特集：大図研京都ワンディセミナー「若手研究者の文献利用環境を巡る問題と図書館へのニーズ」参加報告
 ・若手研究者からの要望に大学図書館界はどう応えるのか(三本木 彩)
 ・大学や公共といった館種を超えて図書館ができること(中村 直美)
 ・若手研究者という“新たな”サービス対象者(川﨑 千加)
・ わたしの図書館紹介します！「京都大学農学部図書室」(小松原 記子, 西川 真樹子)

6）支部報 No.300（2014/06/15 発行）
・ 大学図書館問題研究会京都支部第 37 回京都支部総会のご案内
・ 大学図書館問題研究会京都支部第 37 回京都支部総会議案
・ 京都支部委員の募集について
・ 大学図書館問題研究会愛知支部・京都支部合同企画のご案内

（3） Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。また、2011 年度以降、支部報記事の電子化を実施しています。また、1-150 号についても電子化作業が完了し公開しました。Web サイトは 2014 年 6 月 20 日現在、18,069 アクセスを得ています（アクセスカウンター設置：2006 年 8 月 22 日）。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.173（2013 年 7 月 2 日）から no.180（2014 年 5 月 31 日）を発行しました。支部活動をお知らせするものとして、従来の支部委員会議事録、支部企画案内等に加え、2011 年度からは支部報の発行を目次・概要とともに紹介する記事を配信しています。 また、月 1 回のイベント案内を定期的に配信することに加え、支部会員によるメーリングリストの積極的な活用を狙って、試行的に支部委員という立場を離れて、一人の会員という立場から個別にイベント案内を発信しました。

さらに、Twitter の活用を図り、394 アカウントのフォロワーを得ています。忘年会やワンディセミナー告知、支部報や議事録の発行の広報を行いました。

（4） 組織活動

会員数は、今年度より行ないました学生会員制度の開始にあわせ、特別企画やセミナー開催、個別の勧誘等の結果、2014 年 6 月 20 日現在 74 名で、2013 年度当初より 7 名増となります。

また、大図研の運営体制について具体策を審議する評議員に支部より 5 名が参加しました。評議員会の審議内容を元に支部組織について検討を行ないました。

（5） 財務

2013 年度に引き続き、会費納入率の向上に努めていますが芳しくない状況です。所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行いましたが、2010、2011 年度総会で宣言した努力目標未納率 0%には至っていません。なお、各年度の未納率は次のようになっ

ています。2008 年度 1%、2009 年度 1%、2010 年度 3%、2011 年度 6%、2012 年度 9%、2013 年度 12%（2007 年度以前は 0%。休会扱い 3 名を含む）。

特別研究交流会企画費を執行し、島根にてセミナーを行ないました。特別事業費を執行し学生会員制度を試行しております。多数の企画が実現したため研究交流会費に多くの予算を使用いたしました。

また、評議員会の審議内容を元に会費徴収の方法について検討を行ないました。

（6）広報とデザイン

大図研京都ワンディセミナー「島根大学探訪 ～図書館での「学び」と「協働」を考える～」及び「若手研究者の文献利用環境を巡る問題と図書館へのニーズ」についてチラシの作成を担当しました。セミナー等における広報やデザインの重要性を再確認し、次年度以降に生かすこととします。

2. 2014 年度活動方針

（1） 研究交流活動

・ 会員の発表の場としての研究交流活動の企画に積極的に取り組みます。

・ 会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。そのためにも、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

・ セミナー開催頻度としては、年 2 回程度を目標といたします。

（2） 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。今後も、会員に「発表の場を提供する」という目標のもと、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することを目指し、引き続き努力していきます。

（3） Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトを随時更新することで、京都支部が主催・共催する種々の活動情報や電子化された支部報記事を迅速に提供します。その他のコンテンツの拡充や会員間コミュニケーションの促進強化についても継続して検討していきます。

また、メールマガジンについても、より読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、Twitter アカウントの積極的活用を継続します。

さらに、メーリングリスト"ゆりかもめ"について、その目的である"会員相互の親睦と交流を盛んにすること"の達成を目指し、会員による自由な投稿を促進するよう検討を重ねます。

（4）　組織活動

大図研のミッション・ステートメントを実現するための方策を検討します。常任委員会、全国委員会の大図研将来検討に伴い、支部組織について再検討する必要があります。2013年大図研総会後、臨時総会を開き支部規約等の変更を行なう予定です。

支部としては今後とも継続して活動を行い、支部の持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都支部に在籍していることにより一層価値を見いだせるような活動を行います。

（5）　財務

今後の活発な研究企画実施のため、研究企画費を見直します。

常任委員会、全国委員会の大図研将来検討に伴い、会費徴収の方法について再検討する必要があります。2013年大図研総会後、臨時総会を開き支部規約等の変更を行なう予定です。また、常任委員会の会計補助に支部より１名参加する予定です。

（6）広報とデザイン

近年活発に行っているセミナー等において、チラシ作成等の広報活動を効果的に行います。また Web サイト等のデザインについて見直し、必要に応じて修正を行います。